



めいわ

児童会スローガンは「明和の子 アイスの心で 元気よく！」

校長 井上 貴文

梅雨時のわずかばかりの晴天の恵みにより、6年生の修学旅行を実施することができました。すべての児童が参加して、昨年度に引き続き、当初の計画どおり熊本へ。思い出に残る修学旅行ができ、保護者、家族への感謝の気持ちを新たにできる機会になったのではないのでしょうか。

さて、先日、本年度第1回の児童総会が行われました。まず、各委員会からの本年度の活動等についての発表がありました。発表内容を簡潔にまとめ、堂々とした発表ができました。次に、児童会スローガンへの各学級での取組についての発表でした。本年度の児童会スローガンは、「明和の子 アイスの心で 元気よく！」です。アイス的心については、折に触れ子供たちに伝えてきたところですが、そのことについて自分たちで考えようということに至ったことはたいへんうれしいことです。



質問も堂々と

各学級で話し合った内容は次の表のとおりです。(特別支援学級児童は交流学級で)

1年1組	ともだちとなかよくする 元気のよいあいさつをする
1年2組	なかよく たすけあう スマイル
2年1組	力をあわせる まずやってみる
2年2組	立ち止まって元気にあいさつ 自分も相手も大切に 友達にうそをつかず優しく
2年3組	相手を見て大きな声であいさつ あぶないことをしない 正直に話して素直に聞く
3年1組	立ち止まってえしゃく 教室や廊下を走らない 思いやりをもつ
3年2組	元気よくあいさつ 交通事故に気を付ける 素直な気持ちで人に接する
4年1組	命を守る 人のために行動する
4年2組	だれにでもはきはきあいさつ 命をしっかり守る すなおな心をもつ
5年1組	門礼やあいさつをしっかり 階段の降り方に気を付ける 相手の気持ちも考え行動
5年2組	明るく元気に先手あいさつ 合言葉を守って命を大切に
6年1組	気持ちよいあいさつや返事 周りを見て安全に 正直な心
6年2組	語先後礼であいさつ 自ら考えて行動 何事も積極的に 分かっていることは実行

学級での話し合いの内容をしっかりと実践できることを期待しています。

おめでとうございます！ 田中利栄子先生 ～第72回南日本書道展 最高賞の「南日本新聞社賞」受賞～

田中さん(の部)ら表彰
南日本書道展今日まで

11日まで鹿児島市の黎明館で開かれている第72回南日本書道展(南日本新聞社主催、白石屋書道)の表彰式が10日、同館の南日本新聞会館であった。一般の部の田中利栄子(61)と、高校生の部の田中利栄子(10)の2人が、南日本新聞社賞を受賞した。表彰状は、南日本新聞社から贈られた。

今年度は一般の部に307点、高校生の部に597点、小学部の部に1033点の応募があった。黎明館には入賞(すいしん)の作品が約496点が展示されている。一般の部は甲乙つけがたい中での受賞、自信を持って勉強を進めて」と総評した。(林孝輔)



南日本新聞社賞を受ける田中利栄子さん(10日、鹿児島市の南日本新聞会館 (中根社太郎撮影))

6月11日南日本新聞



個性にじむ黒白の妙

鹿児島市の黎明館で開催されている第72回南日本書道展(南日本新聞社主催、白石屋書道)には、個性がにじむ黒白の妙な作品が数多く展示されている。中でも、田中利栄子(61)の「允禧詩」が、最高賞の「南日本新聞社賞」を受賞した。田中さんは、南日本新聞社賞を受賞した。表彰状は、南日本新聞社から贈られた。

「允禧詩」は、田中利栄子(61)の力作で、筆力と感性がにじみ出ている。この作品は、南日本新聞社賞を受賞した。表彰状は、南日本新聞社から贈られた。

【評】線の抑揚や墨量、字の疎密といった工夫で、古典の個性的な現代風アレンジに成功している。

この度、本校で田中先生が、南日本新聞社賞を受賞されたこと、おめでとうございます。先生のお喜びの気持ちを、ぜひお伝えしたいと思います。誠にありがとうございます。

6月9日南日本新聞

第72回南日本書道展

11日まで黎明館

南日本新聞社賞
集中心力を尽くせた

「允禧詩」
田中利栄子さん(61)
鹿児島市原良1丁目

2度の出品で入賞1回、入賞なし。3書展の連続で「南日本新聞社賞」を受賞した。田中さんは、南日本新聞社賞を受賞した。表彰状は、南日本新聞社から贈られた。